

## 「おたふくかぜ」(流行性耳下腺炎)も流行っています！

新年明けましておめでとうございます。昨年から新型インフルエンザとワクチンの接種で忙しい診療が続いています。今年も「小児クリニックたまなは」スタッフ一同、子ども達の健康維持に貢献していきたいと思っています。引き続きよろしく願いいたします。

年末から再び新型インフルエンザが蔓延し、年明け早々中部において、これまで全く元気だった4歳の幼児が数日間で死亡してしまう劇症の「新型インフルエンザ脳症」が報告されました。発症数日前には1回目の新型インフルエンザワクチンを接種していたというのですが、ワクチンの効果発現は2週間後からで、しかも小児は1回の接種では不十分なため2回接種が必要とされています。軽症で済むのか重症になるのか、私どもにも予測が付きません。予防こそ最良の武器ですので、まだ接種していない方は早めに受けられるようお奨めします。

さて最近では、新型インフルエンザの他に「ロータウイルスによる急性胃腸炎（嘔吐と下痢）」と「おたふくかぜ」（ムンプス、流行性耳下腺炎）が小流行しています。

「おたふくかぜ」は唾液を出す耳下腺が、おたふくかぜ（ムンプス）ウイルスによって腫れる感染症です。

潜伏期間は2～3週間で、時々耳の下ではなく、あごの下の顎下腺が腫れる場合には診断に迷う事があります。

年齢的には4～5歳頃に多く罹り、症状は発熱、耳下部の痛みですが、腫れが引くまでの3～7日間は感染します。

両側の腫れが75%で、片側だけの腫れが25%と言われており、腫れている間は登園・登校禁止です。

大人になってからの「おたふくかぜ」は重症になり易いため、子どもの時に感染した覚えがないという成人で免疫の有無（抗体検査）を調べる事がありますが、多くの方が抗体陽性（すでに免疫を持っている）なのです。「おたふくかぜ」は、罹っても明らかな症状が出ないという「不顕性感染」の率が高いのです。（30%と報告あり）ハッキリしない貴方、血液検査ですぐわかり

ますのでご相談下さい。

時々、何度も耳下腺部が腫れる「反復性耳下腺炎」の患児がいます。「おたふくかぜ」は一度しか罹りませんので、まず前もって抗体検査をしておき、陽性ならば他のウイルスか細菌が原因と判断します。従って、その場合は腫れても隔離は必要ないということです。

合併症として高熱の持続、頻回の嘔吐、頭痛などの「無菌性髄膜炎」になることがあります。多くはありません（40～50人に1人）。しかも後遺症もなく回復するのが一般的です。

また私はまだ経験がありませんが、ごく稀に難聴になると報告がありますので気を付けたいものです（1～2万人に1人）。耳元で髪の毛をもむ時にジャリジャリした音が聞こえているかで正常な聴力かを判断しています。

1歳から「おたふくかぜ」の予防接種ができますが、残念ながら有料です。8～9割の有効率ですので、この際考慮されてはいかがでしょうか。（たまなは）